

防災士になる。

社会の様々な場で減災と社会の防災力向上を目指し活動する防災士は、我が国に欠かせない存在となっております。

当センターは「防災士制度」発足以来、全国各地で960回以上の防災士養成研修を企画し、高い評価と信頼を得ております。

(開催予定の主なコース)

開催回数	コース名	日 程			開催地	会 場 名	申込状況	入金締切日
		初日	2日目	3日目				
第948回	東京10月コースA	初日	10月3日	(土)	東京都港区	グランパークプラザ(田町)	満席	8/28(金)
		2日目	10月4日	(日)				
第949回	福岡10月コース	初日	10月10日	(土)	福岡市中央区	天神チクモビル	満席	9/4(金)
		2日目	10月11日	(日)				
第950回	東京10月コースB	初日	10月31日	(土)	東京都港区	グランパークプラザ(田町)	満席	9/25(金)
		2日目	11月1日	(日)				
第951回	札幌10月コース	初日	10月31日	(土)	札幌市中央区	札幌市教育文化会館	満席	9/25(金)
		2日目	11月1日	(日)				
第952回	大阪11月(平日)コース	初日	11月5日	(木)	大阪市中央区	シキボウホール	満席	9/25(金)
		2日目	11月6日	(金)				
第953回	大阪11月(土日)コース	初日	11月7日	(土)	大阪市中央区	シキボウホール	満席	10/2(金)
		2日目	11月8日	(日)				
第954回	東京11月コース	初日	11月7日	(土)	東京都港区	グランパークプラザ(田町)	満席	10/2(金)
		2日目	11月8日	(日)				
第955回	名古屋11月コース	初日	11月14日	(土)	名古屋市東区	名古屋栄ビルディング	残席僅少	10/9(金)
		2日目	11月15日	(日)				
第956回	岩手盛岡11月コース	初日	11月21日	(土)	岩手県盛岡市	岩手県高校教育会館	満席	10/16(金)
		2日目	11月22日	(日)				
第957回	新潟柏崎11月コース	初日	11月28日	(土)	新潟県柏崎市	柏崎市役所	残席僅少	10/23(金)
		2日目	11月29日	(日)				
第958回	埼玉春日部12月コース	初日	12月5日	(土)	埼玉県春日部市	春日部市防災センター	受付中	10/30(金)
		2日目	12月6日	(日)				
第959回	青森十和田12月コース	初日	12月5日	(土)	青森県十和田市	沢田悠学館	受付中	10/30(金)
		2日目	12月6日	(日)				
第960回	東京12月(平日)コース	初日	12月17日	(木)	東京都港区	グランパークプラザ(田町)	満席	11/13(金)
		2日目	12月18日	(金)				
第961回	東京12月(土日)コース	初日	12月19日	(土)	東京都港区	グランパークプラザ(田町)	残席僅少	11/13(金)
		2日目	12月20日	(日)				
第962回	大阪12月コース	初日	12月19日	(土)	大阪市中央区	シキボウホール	満席	11/13(金)
		2日目	12月20日	(日)				

上記以外にも全国で研修開催を検討しております。

最新の開催コース確認や研修お申し込みは弊社ホームページをご確認ください。

<http://www.bousaishi.net/>



私たちがも防災士です。

防災士は、家庭や職場、地域の防災力向上の資格です。—— 助けられる人から助ける人へ



18万人の防災士が日本全国で防災・減災に取り組んでいます。

防災士研修で培った、防災の基本となる知識・理念が役立ちます。



- 地震のしくみと被害
- 近年の自然災害に学ぶ
- 土砂災害と対策
- 避難所の開設と運営
- ハザードマップと災害図上訓練（グループワーク）
- 風水害と対策
- 災害と危機管理
- 耐震診断と補強
- 身近で出来る防災対策

活力ある地域の防災力形成に「防災士」の力が活かされます。



1. 地区の特性に応じた計画
2. 地域コミュニティ主体のボトムアップ型の計画
3. 継続的に地域防災力を向上させる計画



Bousaishi Training Center
防災士研修センター
日本防災士機構認証研修機関

電話 (03) 3556-5051

<http://www.bousaishi.net/> FAX (03) 3556-5535

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館7階

ご相談・ご質問、詳細のお見積り等、お気軽にご連絡ください。

防災士研修センターが
これまでに開催した研修は
日本全国で850回以上!



全国470を超える自治体が
防災士の養成に取り組んでいます。



防災士養成助成制度等の
実績がある自治体



防災士

防災士は、地域や家庭、職場の防災力向上の資格です。

防災士研修センターは、
全国で防災士養成研修を実施いたします。

防災士は全国に
18万人



地元**に強い「防災士」**が生まれます。
研修のお申込みから実施・資格取得
まで一貫して行います。



— 自治体、団体、企業向けのご案内 —



Bousaishi Training Center
防災士研修センター
日本防災士機構認証研修機関

地元にあった研修講座を地元で開催する。 地元で強い「防災士」を養成いたします。

自治体様が
地域防災力向上のために、
たどりついたのは「防災士」

今、住民・職員の防災士取得の 必要性が高まっています。

自然災害全般について学び、自ら災害に備え、近隣の人々を助ける「防災士」が、自治体様の各地域に存在することが、防災力向上に結びつく。この理念は全国各地の自治体様に広がっています。

防災士研修センターでは、地域の中で防災活動するためには、50名以上の防災士が必要だと考えています。そして、防災士の活動を未来に向かって発展させていくために、防災士の養成を継続していく必要があります。

防災士研修センターは、各自治体様のご要望に応え、また、ご担当者様の業務負担を少なくし、円滑に防災士を養成いたします。

事前学習と2日間の研修を受講し、 試験合格後に「防災士」の資格を取得します。



安心の合格率 90% 以上！

短期間で、地域の防災リーダーの基礎を身につけることができます。

- 〈防災士養成研修の特徴〉
- ◎防災界を代表する講師陣
 - ・全国防災の先駆けで、オピニオン・リーダーによる講義。
 - ・防災分野を代表し、リアリティある講義。
 - ・熱意あふれる講義で知識を得る。
 - ◎幅広い分野の講義
 - ・防災を多面的な視点で捉える。
 - ・地域特性に合った講習の実施。
 - ・研究データ、災害事例、災害映像、被災者の声などから真実を知る。
 - ◎高い学習効果
 - ・災害発生時の状況や事前の備え。
 - ・実践的なグループ講習で、いろいろな視点から学ぶ。
 - ・リーダーシップや多様性を認識し、人間力の向上。

自助

自分の問題として防災と向き合う意識を醸成する。



共助

「防災士」の資格が、地域での使命感を生む。



防災士資格取得が、防災への意識向上と、今後の活動をささえます。

防災士資格取得までの一貫したプランを実現！

地域の災害特性に合ったオリジナルの
研修・講座のカリキュラムを実施します。



地元で研修を開催して、地域の方々が一緒に受講。



- 地元開催だから、受講者様の利便性が高くなります。
- ご希望の時期に開催することができます。
- 一度の研修で多数の防災士を養成できます。
- 予算関係資料、契約関係資料など作成を支援いたします。

自治体様主催にて
研修を開催

防災士研修センターと
自治体様の共催で
研修を開催

※自主参加の一般受講生も受講

複数の周辺自治体と合同で実施することも可能です。

補助金・助成金を
交付して
一般公開コース
への参加

主要都市の研修に参加
東京・大阪・名古屋・
福岡・札幌・盛岡・
仙台など

防災士研修センターでは、多くの学習教材と各分野の著名な講師陣による講義を企画・運営し、2日間の短期集中で「防災士」を誕生させます。詳しくはHPで



講師は、防災関係の各学会等を代表する方々です。

長年の実績によるノウハウで、お申し込みから実施まで、
熟練したスタッフ陣による、迅速で効率よく運営実施いたします。

～ご担当者さまと連携し、円滑に防災士を養成いたします。～

防災士は日本全国でそれぞれの分野での 防災・減災に向けた活動に取り組んでいます。

現在、防災士として活躍されている方のなかには、当初「防災に対して何をすれば良いかわからない」という悩みをお持ちの方が多くいらっしゃいました。防災士研修講座には防災に関する知識だけでなく、その取り組みのヒントが詰まっており、受講後の感想には「災害に備える考えの基礎が出来た」「まず何を始めれば良いのか分かった」との声がたくさんございます。防災士研修講座は皆様の今後の防災・減災活動への確かな道標となります。



お申込み前に

助成制度の有無をお住まいの市町村役場窓口へお問い合わせください



全国の自治体では地域防災力強化のために、さまざまな取り組みが行われています。防災士資格取得についても助成金を交付し、住民の皆様の防災士資格取得を支援されている自治体が多くございます。ぜひお申込み前にお住まいの自治体窓口へ助成制度のご確認をお願いいたします。

また、防災士研修を地元で開催することも可能です。地域や職場の防災力向上の担い手として、ぜひお住まいの地域での開催もご検討ください。

※自治体によって助成制度の内容が異なり、全ての住民の方が助成の対象となるわけではありません。
また、制度の運用を終了されていた場合はご容赦願います。詳細は各自治体担当窓口までお問い合わせください。
※開催には諸条件がございます。お気軽にお問い合わせください。

防災士資格取得
までの費用合計

61,900円 税込

防災士研修講座受講料 49,000円 + 税
防災士資格取得試験受験料 3,000円
防災士資格認定登録料 5,000円

■資格取得に関する特例について

消防署で消火、救助救急の実務を経験された消防吏員の方（退職者の方を含む）、あるいは、日本赤十字社の所定の教科を修了し、赤十字救急法救急員の資格を取得されている方には防災士資格の取得につきまして特別規定が適用されます。詳しくは日本防災士機構までお問い合わせください。

■受講コースの変更

原則コース変更は承っておりません。
やむを得ずコース変更をご希望の場合、手数料等別途費用が発生致します。
詳細につきましては下記までお問い合わせください。
防災士研修センター事務局TEL:03-3556-5051 (9:00-18:00/土日祝除く)

■受講登録の取り消し

受講登録の完了後、受講者ご自身の都合で受講を取り消される場合は、右記の金額を取消料として申し受けます。

■在籍期間について

会場研修未修了、防災士資格取得試験未受験、防災士認定登録の受講者様は、当該年度の翌年度末（毎年3月31日まで）が在籍期間となり、その間に限り、適宜コース案内・試験案内・登録のお問い合わせを当センターより送付いたします。それ以降は在籍期間失効となりますので、受講・受験・登録につきましては早目にご連絡ください（在籍期間失効後は登録料等の返金には応じかねますのでご了承ください）。

学生の方には学割適用!

36,600円 税込

取消受付日	取消料
教材発送後から8日目の間に取消通知された場合	10,000円
7日目～前日に取消通知された場合	20,000円
会場研修当日以降に取消通知をされた場合 および取消通知をされなかった場合	56,900円

※お申込みいただいた金額から下記取消料と振込手数料を差し引いて返金致します。
※取消通知は受講登録された研修コースの会場研修初日から起算します。
※取消通知日は取消のお申し出に対し、当センターから取消お申し出受付のご案内をお送りした日を指します。

防災士

防災士研修講座のご案内



私たちも防災士です。

防災士は、家庭や職場、地域の防災力向上の資格です。—— 助けられる人から助ける人へ

防災士は全国に
18万人
SINCE 2003

オリジナルの学習教材と各分野の著名な講師陣による授業が、防災知識の向上と今後の活動を支えます。



防災士研修センターは「防災士制度」発足以来、全国各地で850回以上の研修を実施し、高い評価と信頼を得ております。

充実の
授業内容

2日間の座学を受けることで防災に関して必要な一般知識と地域特性に関する知識が身につきます。受講生同士で話し合いながら取り組む演習では、さまざまな意見・視点を知るだけでなく、同じ志を持つ仲間と出会えます。

安心の
合格率90%以上

幅広い年齢の方が安心して試験に臨めるように、当センターオリジナルの教材（事前学習レポート／試験対策ブック）をご用意しております。オリジナル教材で学習することにより、教本全体を学習できるだけでなく、実際の試験と同じ形式での学習が可能です。

講師は、防災界を代表する方々です (50名順)



研修モデルプログラム(参考例) ※下記内容は参考例です。各研修会場によって時間及びカリキュラムは異なります。

1日目

9:00	受付	受付の際に事前課題提出(履修確認レポート)
9:15~9:30	オリエンテーション	防災士研修の流れや資格取得試験・防災士認証登録に関する説明
1時限目 9:30~10:30	防災士の役割	防災意識の啓発、防災訓練等、防災士に期待される役割について、実際の防災士の活動を交えつつ学ぶ
2時限目 10:40~11:40	地震のしくみと被害	4つの巨大プレートの上に存在する日本。避けられない地震発生メカニズムや想定される被害等、巨大地震とその対策について学ぶ
3時限目 11:50~12:50	近年の自然災害に学ぶ	地球環境の変化に伴い、近年多発している気象災害や自然災害に関して、実際に起きた災害事例をもとに理解を深める
12:50~13:50	昼休み	防災ビデオの上映(視聴は任意です)
4時限目 13:50~14:50	土砂災害と対策	日本の国土には52万か所を超える土砂災害危険箇所がある土砂災害の種類や、発生しやすい地盤・地質、誘因となる地震や豪雨との関連を学ぶ
5・6時限目 15:00~17:10	避難所の開設と運営(講義と演習)	当センター開発のグループワーク形式の実践型演習。巨大災害時は被災者自身で避難所を運営する必要に迫られるため、実際に起こりうる問題を想定し、どう解決するか討議することで、避難所運営の基礎を学ぶ

2日目

9:00	受付	会場にて受付
9:15~9:30	防災士制度の紹介	防災士資格10年の歩みを紹介するビデオの上映
1・2時限目 9:30~11:40	ハザードマップと災害図上訓練(講義と演習)	地震や豪雨災害を想定し、発生後にどんな被害が起こるのか、被害軽減のためには事前にどんな対策が必要かを、地形図と被害想定図を用いてグループ討議を行う地元地域でも実践可能な災害図上訓練の方法を理解する
3時限目 11:50~12:50	風水害と対策	風水害の発生しやすい状況や、天気予報などから得られる情報の意味を正しく理解し、災害への対策や避難方法を学ぶ
12:50~13:50	昼休み	防災ビデオの上映(視聴は任意です)
4時限目 13:50~14:50	災害と危機管理	危機の種類や危機管理活動の分類等の基本的なことだけでなく、危機管理を担当した講師の実体験に基づいた講義から危機管理の本質を学ぶ
5時限目 15:00~16:00	耐震診断と補強	耐震基準の整備されてきた歴史や、阪神・淡路大震災等の被害を交えて、日本で何故耐震補強が重要なのかを学ぶ
6時限目 16:10~17:10	身近で出来る防災対策	家具固定や備蓄のポイント、安否確認の方法など、家庭や職場、地域ですぐに実践できる防災対策の重要なポイントと方法を学ぶ
17:30~18:30	防災士資格取得試験	制限時間は50分間/全30問出題/解答を終えた方から退出が可能

お申し込みから防災士資格取得までの流れ

防災士研修講座は「自宅学習（履修確認レポート／試験対策学習）」と「会場研修」の2本立てで構成しています。

受講される研修コース名を明記してください。

〈記入例〉

あなたのご住所、お名前をご記入ください。

STEP 1

受講申込

①ご希望の研修会場をお選びください。

最新の会場状況は、ホームページまたはお電話でお問い合わせください。

②ホームページまたはFAXからお申し込みください。

③郵便局備え付けの用紙（払込取扱票）にて受講料を振り込んでいただくと、受講登録完了となります。

STEP 2

自宅学習

①研修の3～4週間前に教材が送付されます。

「防災士教本」の他に「履修確認レポート」「試験対策ブック」が届きます。届いた教材をもとに事前課題（履修確認レポート）へのお取組みと試験に向けた自宅学習をお願い致します。

②事前課題は研修初日にご提出いただきます。

救急救命講習の受講をお願いします。

※会場研修の受講終了後でも問題ございません。



STEP 3

会場研修
+
資格取得試験

①予約された防災士研修講座を受講します。

会場ではさまざまな分野で活躍されている著名な講師陣の講義を受講いただき、災害のしくみや防災士としての役割等について学んでいただきます。研修プログラムは各会場ごとに地域特性を考慮し、座学と演習の2種類の講義が実施されます。

②防災士資格取得試験を受験します。

研修2日目の最後に資格取得試験が実施されます。

試験範囲：該当年度の防災士教本内

出題数：30問（三択形式）

試験時間：50分

※万が一、試験に不合格になった場合は、近隣会場で再試験が可能です。



STEP 4

認証登録
申請

防災士資格取得には

●防災士研修講座の受講（履修確認レポートのご提出＋会場研修2日間）

●救急救命講習の受講

●防災士資格取得試験の合格

の上、申請に必要な書類のご提出が必要となります。

日本防災士機構に認証登録申請をすることにより、防災士台帳に登録され、防災士としての第一歩が始まります。

※書類の提出は研修会場でも可能ですので、必要書類が事前に揃う方は、会場での提出をお勧めいたします。

※認証登録の申請後、防災士資格認定証一式がお手元に届くまでに時間がかかる場合がございます。

お仕事や就職活動等で期限がある方は、ご注意ください。



古村 孝志
東京大学地質学研究所
公益社団法人
日本地震学会副会長

牧 紀男

筑波大学
防災研究所教授

松井 一洋

広島経済大学経済学部
メディアビジネス学科教授

村上 仁士

徳島大学名誉教授
NPO法人大塚根史舎
防災研究機構副理事長

村野 淳子

岩手県企業部危機管理課
防災推進専門員

室崎 益輝

兵庫県立大学防災教育センター長
神戸大学名誉教授

目黒 公郎

東京大学大学院
情報学環総合防災情報
研究センター教授

矢野 良明

元気象庁副所長兼台長員

山岡 耕春

名古屋大学
豊橋山研センター教授
公益社団法人日本地震学会会長

山本 晴彦

山口大学大学院
新成科学研究科教授